

# 航空・防衛・宇宙

## 民間機

1,445 億円

主要な製品とサービス

- ・民間航空機  
(構造 Tier1 事業、  
アフターマーケット事業)



## 防衛・宇宙

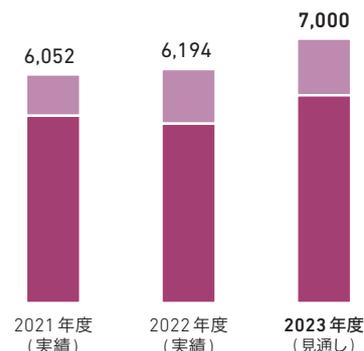
4,749 億円

主要な製品とサービス

- ・防衛航空機
- ・飛しょう体
- ・艦艇
- ・特殊車両
- ・特殊機械(魚雷)
- ・宇宙機器

## ■ 売上推移

(億円)



## 2022年度の概況と中長期の重点戦略

### 事業環境

民間航空機分野では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行による旅客需要の急激な落ち込みからの本格的な回復は、2024年頃と見込まれています。この旅客需要の回復に合わせて、旅客機生産機数も増加するものと想定されますが、業界全体で人手不足に起因するサプライチェーンの供給制約が発生しており、生産回復に影響を及ぼしています。

防衛分野では、国家安全保障強化の機運の高まりを受けて、国の防衛力整備計画が大きく拡充されました。

宇宙分野では、世界的な宇宙空間の利用の高まりを背景にして、ロケットの打上げ需要が拡大しており、特に、国の新型基幹ロケットであるH3ロケットに対し、国内外の衛星事業者から多くの期待が寄せられています。

### 事業の状況

民間航空機が増加したものの、飛しょう体が減少したことなどにより、連結受注高は、前年度を下回る7,036億円となりました。売上収益は、民間航空機や防衛航空機が増加したことなどにより、前年度を上回る6,194億円となりました。事業利益は、民間航空機の増収に伴う利益の増加等により、前年度を上回る399億円となりました。

民間航空機分野では、構造Tier1事業において、売上規模に見合った固定費削減等の損益改善策を継続するとともに、複合材技術等を活かし、新規プログラム参画へ向けた取り組みを進めていきます。アフターマーケット事業では、CRJを主とする既存のMRO<sup>※</sup>事業のさらなる生産性向上に加え、新たなコンポーネント修理事業等の提供による規模拡大と収益力向上を図ります。

防衛分野では、スタンドオフ防衛能力や無人アセット防衛能力等の抜本的強化、従来装備品の能力向上や周辺分野の拡大等に応えることで、防衛のリーディングカンパニーとして、安全・安心な社会を支え続けていきます。

また、宇宙分野においては、H3ロケット開発の早期完遂に向け国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)とともに取り進めていきます。

※ MRO: Maintenance, Repair and Overhaul(修理、整備)

## FOCUS 民間航空機：“空の脱炭素化”で、持続可能な航空産業の実現へ

### 旅客需要の推移



ボーイング787型機



787型機の主翼

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で急激に落ち込んだ民間機の旅客需要は、2024年頃にはコロナ禍前の水準まで回復すると見込まれ、その後も人の移動と経済成長に伴い20年後の2040年頃には約2倍にまで成長すると予想されています。

一方で、旅客機の運航によるCO<sub>2</sub>排出量は、2019年の段階でも年間10億トンを超え、世界全体のCO<sub>2</sub>排出量の2%超と、船舶や鉄道からの排出量を上回る規模と算出されています。旅客の増加に伴い、運航される旅客機の数も増加する見込みであることから、今後も成長が予想される航空機市場においては、旅客機の脱炭素への取り組みが一層重要なものとなります。

ボーイング社の旅客機787型機は、当社が製造を担当する主翼をはじめ多くの構造部位に複合材を使用することで大幅な軽量化を実現し、他の先進技術の採用

と併せて、従来の同型機と比べ約20%ものCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しました。この787型機は2011年の運航開始以降、現在までに1,000機以上が世界中で運航されていますが、当社は長年にわたり蓄積した航空機製造ノウハウを活かし、大型で複雑な形状を持つ787型機の複合材主翼を高精度かつ高品質に生産することにより、“空の脱炭素化”に貢献しています。

また2022年度から、複合材主翼の工程廃材を家電製品に再利用するCFRP\*のリサイクル化も進めており、資源の有効活用を通じて環境負荷低減と地球環境保護の取り組みを推進しています。

今後も民間航空機部門としての強みを活かしながら、航空産業の持続的成長と脱炭素実現を両立させることで、社会へ持続可能な価値を提供していきます。

\*CFRP: Carbon Fiber Reinforced Plastic(炭素繊維強化プラスチック)

### ▶ ステークホルダーの声



ボーイング ジャパン  
インダストリーリレーションズ&  
スペシャルプロジェクト担当ディレクター  
益田 直子様

日本にて、日本のパートナーとともにサステナブルな航空の将来を目指して

三菱重工とボーイングの民間航空機部門はこれまで50年以上、相互信頼の下に確固たる協力関係を築き上げ、今では比類ないビジネスパートナーとして緊密に連携しています。引き続き、さまざまなレベルでのコミュニケーションを通じ、三菱重工の確かな品質管理に基づく製品提供を期待しています。

またボーイングは2022年夏、日本の研究開発センターを立ち上げており、代替航空燃料(SAF)、電動化、DXによる設計・製造分野の技術革新等について、日本での研究開発を本格化することとしています。今後、世界を見据えたサステナブルな航空の将来を目指して日本のパートナーと従来とは異なる分野でも協力していくことを楽しみにしています。